

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 5 年 6 月 26 日(2023.6.26)

【公開番号】特開 2022-191145(P2022-191145A)  
【公開日】令和 4 年 12 月 27 日(2022.12.27)  
【年通号数】公開公報(特許)2022-239  
【出願番号】特願 2022-42191(P2022-42191)  
【国際特許分類】  
A 6 3 F 7/02(2006.01)  
【F I】  
A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

10

【手続補正書】  
【提出日】令和 5 年 6 月 16 日(2023.6.16)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】特許請求の範囲  
【補正対象項目名】全文  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

遊技の演出にかかわる動作を行う複数の可動部と、  
前記可動部を制御可能な制御手段と、  
を備え、  
前記複数の可動部は、  
第 1 の可動部と、第 2 の可動部とを有し、  
前記制御手段は、

前記第 1 の可動部と前記第 2 の可動部とが近傍に存在して共に同方向へ移動させる演出  
が実施される場合は、前記第 1 の可動部と前記第 2 の可動部とを異なるタイミングで動作  
可能である

30

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 1  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 0 1】

本発明は、例えばパチンコ機あるいはパチスロ機等の遊技機に関する。

【手続補正 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 2  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 0 2】

40

従来、パチンコ機あるいはパチスロ機といった遊技機において、当落判定を行い、この  
当落判定の結果に応じて遊技者に有利なゲームを実行する遊技機が知られている。

【手続補正 4】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 3

50

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

この種の遊技機では、当落判定の結果が表示される前に、当落判定の結果が遊技者に有利な結果であることを期待させるために可動役物を作動させる可動役物演出を行い、演出効果を高めるようにしたものがある。例えば、特許文献1に開示された遊技機では、液晶表示器の前方において可動体を作動させる可動役物装置が開示されている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【特許文献1】特開2014-076208号公報

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

20

しかしながら、例えば特許文献1の遊技機では、興趣を高めるには限界があった。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明に係る遊技機は、  
遊技の演出にかかわる動作を行う複数の可動部（例えば、頭可動体群3154、3310、顔可動体群3156、3410、顎可動体群3158、3510、装飾体3620）と、 30

前記可動部を制御可能な制御手段（例えば、サブCPU301）と、  
を備え、

前記複数の可動部は、

第1の可動部（例えば、顔可動体群3156、3410）と、第2の可動部（例えば、顎可動体群3158、3510）とを有し、

前記制御手段は、

前記第1の可動部と前記第2の可動部とが近傍に存在して共に同方向へ移動させる演出が実施される場合は、前記第1の可動部と前記第2の可動部とを異なるタイミングで動作可能である 40

ことを特徴とする。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】